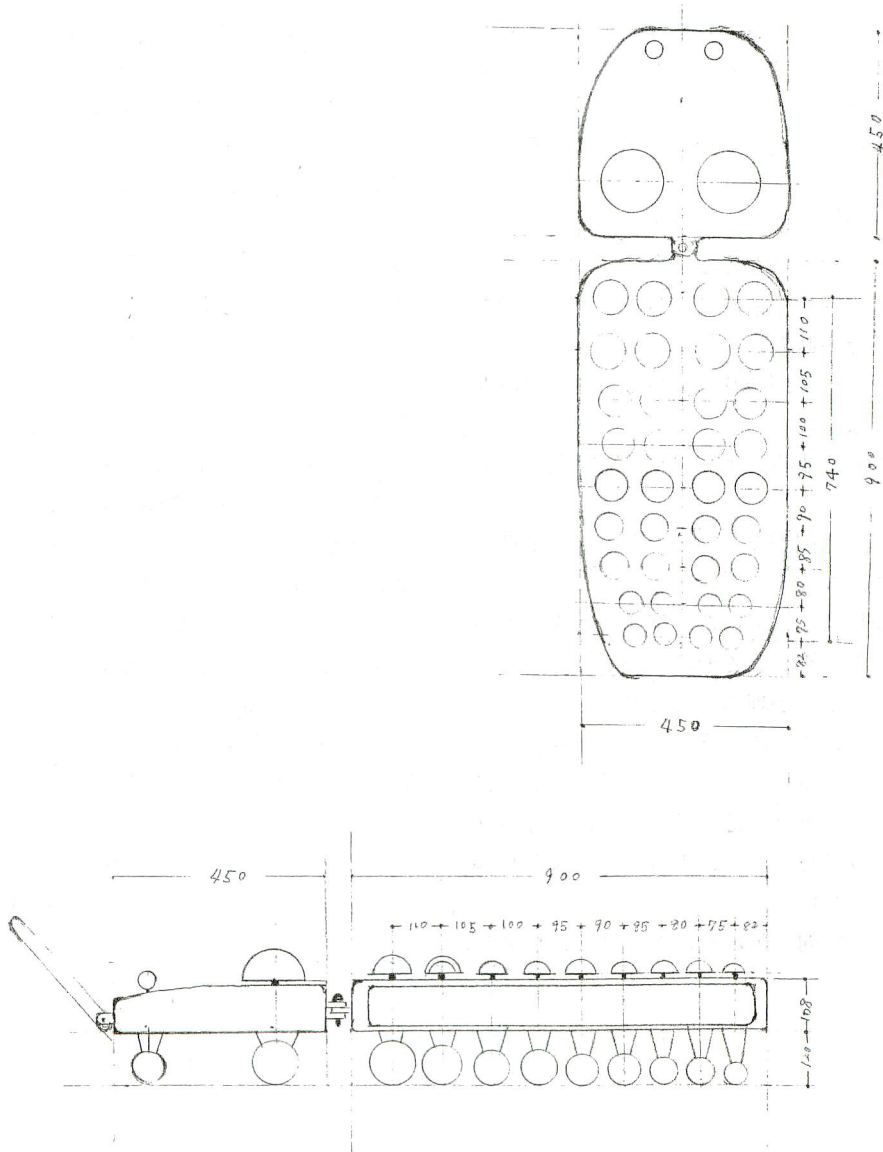


遊具・玩具とあそび

都築 邦春*



* 埼玉大学教育学部美術教育講座

あそびには、あそびの場、空間がなければならぬ。かくれんぼや鬼ごっこなどは特別な遊具を必要としない。そうした、あそびのための遊具を必要としないものと、缶蹴りやビー玉あそび、独楽回し、ままごとあそびのように遊具・玩具を必要とするあそびがある。あそびは昔からあって、時代ごとに変化してきた。しかし、次第に子どもが異年齢で集団を作ってあそぶ姿が見られなくなったように思う。このことにはいくつかの理由が考えられるが、そのいくつかを挙げてみると、

- ①子どもの数が減ったため、集団であそべなくなった。
- ②幼児教育が普及して、自宅周辺での子どもによるあそびがなくなった。
- ③児童・生徒の生活が、学習塾や習い事のためにあそぶ時間がなくなった。
- ④コンピュータが普及して自宅で過ごす時間が多くなった。
- ⑤大人が指導するスポーツや野外活動が普及した。
- ⑥あそびの集団がなくなったため、あそびが伝承されなくなった。
- ⑦あそび場となっていた、空き地や神社の境内などが縮小されるかなくなった。

このようなことが理由として考えられるが、実際はもっと複雑であろう。ただ、作り付けの遊具は増えているようであるが、子どもが、自身で体を使ってあそぶ遊具は、それほど作られていないように思う。特に木製の大きな遊具はあまり見られない。

あそびは長い間、労働と対比されて、無駄な、

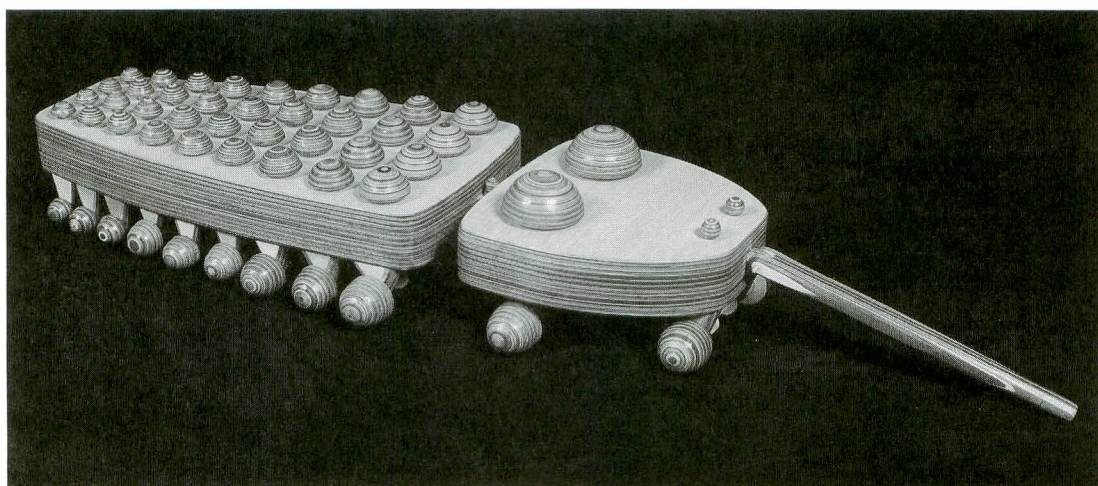
よくない行為とされてきた。特に、家族全員で労働していた農家や商店などでは、あそぶことは労働を逃れることと考えられ、大人たちから禁止されることが多かった。それでも、子どもたちはあそんでいた。子どもは、自分であそび道具を作り、伝承されているルールを現状にあわせながら、あそんでいた。同じあそびでも、人数によってあそび方を変えてあそばれた。あそびの種類も、2、3人であそぶものから、20名近くであそぶものまで、沢山あった。また、異年齢集団であそぶことが多かったから、集団によってあそび方を変えていた。集団あそびを指導していたのは、その集団の年長者であった。リーダーは年長になったものになっていたから、特定のものしかできないということはなかった。誰でも年長者になればリーダーになれた。リーダーの資質は、集団あそびの中で培われた。あそびが伝承されているときには、誰もがあそびを知っていたから、リーダーは、状況に合わせてあそびをリードすればよかった。

あそびの道具も、必要に応じて各自が作成することが多かった。水鉄砲や竹馬、ばちんこなどは各自が自分で作ってあそんだ。メンコやベーゴマなどは、各自が加工してあそんだ。

子どもが見て、さわってあそぶという遊具に近い作品を製作してきたが、子どもが、自分で作ってあそべるような遊具・玩具に近い作品を製作することが今後の課題として考えられる。

(2007年9月28日提出)

(2007年10月19日受理)



「RT-07 (insect 4)」 160×60×30 cm シナベニヤ 2007年4月